

はじめに

インドに興った仏教は、そもそも「生・老・病・死」という人生に避けることのできない苦悩にどう向き合い、いかにそれを克服していくかを探求していくことを、教えの基本としてきました。釈尊は、弟子たちには出家し厳しい修行により生死への執着を越えるよう導かれましたが、釈尊はまた、苦しみ悩む多くの人びとに対しても、「応病与薬」（病にに応じて教えを説く）と言われるように、より多くの人びとに対しても、その悩みに応じて、適切な教えを説き、苦悩する人びとに寄り添っていかれました。

ビハーラは、古代インドにおいて仏教経典の記録などに使用されたサンスクリット語で、「精舎・僧院」「身心の安らぎ・くつろぎ」「休息の場所」を原意とします。1985（昭和60）年に田宮仁氏（当時、佛教大学社会事業研究所研究員）は、そのビハーラという言葉で「仏教を背景としたターミナルケア（終末期医療）施設」の呼称として提唱されました。その背景には、誰もが抱える生老病死の苦悩について、医療や福祉だけでなく、仏教徒が一緒になり、責任をもって応えていきたいという願いがあります。その後、ビハーラは、仏教各宗派の中で展開し、浄土真宗本願寺派においては、1986（昭和61）年12月にビハーラ（仏教ホスピス）研究会を設置し、1987（昭和62）年に「ビハーラ活動」が始まりました。この活動は、仏教徒が仏教・医療・福祉のチームワークによって支援を求めている人々を孤独のなかに置き去りにしないように、その心の不安に共感し、少しでもその苦悩を和らげようとする活動です。

そして、同年よりビハーラ活動者を養成するため「ビハーラ活動者養成研修会」を開催し、その修了者は1,200名を超すまでとなり、宗派における社会福祉を代表する大きな活動となっています。2017（平成29）年度には新たに、医療機関・福祉施設において、医師、看護師、介護士等と協働し、人々の人生観・信仰を尊重しながら苦悩と悲嘆に寄り添い、臨床を専門とする僧侶の養成をめざした「ビハーラ僧養成研修会」を試行として開催しました。現在、ビハーラ活動は開始30年を迎え、これまで多くの活動実践者が誕生し、全国各地域で活動を展開しています。活動者の実践現場は、当初提唱された終末期医療をはじめとする病院から、高齢者施設、震災支援などにも広がりを見せています。

また、1994（平成6）年2月にはじめて「ビハーラ活動全国集会」を開催し、2018（平成30）年2月には全教区（特区）より約400名の活動者が集まり、本願寺において、「第16回ビハーラ活動全国集会・30周年記念大会」“テーマ：いのちを啓くビハーラに生きよう！～み仏の願いに生き生かされる実践～”を開催いたしました。

また、2008（平成20）年4月1日には、宗派が設立母体となり、京都府城陽市にビハーラ総合

施設「あそか第2診療所（あそかビハーラクリニック）」・「特別養護老人ホーム ビハーラ本願寺」を開設しました。「あそか第2診療所（あそかビハーラクリニック）」は、その後、実績が認められ2014（平成26）年4月1日には「あそかビハーラ病院」となりました。ビハーラ活動の理念に基づき、既成仏教教団が単独で取り組む初めての事業として、医師や看護師などの医療者と協働する僧侶を常駐させた病院を設立し、終末期を迎えた人が抱える身体的な痛みだけでなく精神的な痛みや苦しみを、総合的に緩和することをめざした医療の提供を行い、これまでに約1,000名の方を看取ってきました。また、「特別養護老人ホーム ビハーラ本願寺」は、宗門の社会貢献の一環として、ビハーラの理念をもとに介護サービスを提供することで、社会福祉事業所としての使命を果たしています。

現在、ビハーラ総合施設（あそかビハーラ病院・ビハーラ本願寺）は、ビハーラ活動の実践実習の現場としての機能を果たしています。また、全国の医療関係者による見学、諸大学機関の研修受け入れの他、龍谷大学大学院実践真宗学研究科「臨床宗教師研修」の実習受け入れなどにも協力しています。

ご門主様は「念仏者の生き方」において、「私たちはこの命を終える瞬間まで、我欲に執われた煩惱具足の愚かな存在であり、仏さまのような執われのない完全に清らかな行いはできません。しかし、それでも仏法をよりどころとして生きていくことで、私たちは他者の喜びを自らの喜びとし、他者の苦しみを自らの苦しみとするなど、少しでも仏さまのお心にかなう生き方を目指し、精いっぱい努力させていただく人間になるのです」と、私たちの歩むべき道を明確にお示くださいました。

他者の苦しみに寄り添い、その傷みを少しでも和らげたいと取り組むビハーラ活動こそ、まさにご門主様のお示しくださった道ではないかと存じます。

ビハーラ活動推進委員会は、これまでにビハーラ活動10年総括書及び20年総括書を発刊してまいりました。本書は、主として2008（平成20）年から2017（平成29）年度までのビハーラ活動をまとめております。30年という節目を迎え、これまでの歩みを振り返り、思いを新たに、それぞれの現場においてビハーラ活動をより一層推進していただく契機となりますよう心より念じております。

2020（令和2）年3月

ビハーラ活動推進委員会

委員長 竹 田 空 尊